

# 基地撤去をめざす 県央共闘

\* ↑タイトル・題字募集中

NO. 1

2008.8.1

発行：原子力空母の母港化に反対し

基地のない神奈川をめざす県央共闘会議

〒242-0028 大和市桜森 3-5-3 7フォント1F

事務局連絡先T:042-752-4544 F:753-4725

E-mail:wm5h-urn@asahi-net.or.jp

編集責任者 檜鼻達実



## 7.19 原子力空母の横須賀母港化 を許さない全国集会 母港化を返上せよ！！

— 厚木基地、キャンプ座間、相模補給廠  
米軍再編反対の闘いを横須賀まで拡大 —

猛暑としか言いようがない炎天下、原子力空母配備を阻止しようと全国から1万5千人の呼びとがヴェルニー公園に結集した。

5月22日に火災事故を起こしたジョージ・ワシントン は、修理のため入港が9月に延期されるとの米海軍の公式発表があったが、原子力空母の安全性について、より危険度が増幅した。かつて、東海村で臨界事故（核爆発）があったとき、それまで村長に「事故は絶対にありません」と言い切ってきた電力会社の経営者や国の役人たち。以後、村上村長は、「事故は必ず起こることを前提」として、防災訓練を実施していると言う。村上村長は、今でも環境自治体会議の助言者として、現役でご活躍されている。

集会が始まる14時。会場内は参加者でごったがえし、身動きが困難になりつつあった。熱気がぶつかり合う。各々が意思表示をしたゼッケン、プラカードを持っている。主催者が集会開始を告げる。メイン会場は、組合旗が林立。周辺の飲料水の自販機は売り切れ表示。

参加団体のアピールで、98年以来、市民運動の先頭に立って配備阻止の取り組みをしてきた呉東さん（原子力空母の横須賀母港問題を考える市民の会）は、「未来永劫に渡って、原子力の危険性と隣り合わせで暮らすことになる」と訴える。

今年、結成して48年目を迎えた厚木基地爆音防止期成同盟委員長の鈴木さんは、声を絞り出して、艦載機による違法爆音との闘いについて訴えた。

辺野古新基地建設を阻止してきた山城さんは、沖縄では、基地撤去の闘いはすなわち、政治決戦でもある。県政、市政を反基地行政の砦として日本政府を相手に闘い抜いていると力強く訴えた。







#### ◆何故配備 NO か

県央共闘会議は5月31日の第9回定期総会で、原子力空母の配備は、違法爆音の解消を遠ざけることになる。また、岩国への艦載機の移駐はたらい回しにすぎない。空母の配備の是非は、横須賀市民だけの問題ではなく、基地周辺に生活の拠点をもつ私たちの問題でもある。対岸のこととして係わるのではなく、「当事者」として空母の配備を捉えていこう。そして、母港化を返上していくことを目標とすべきとして方針を打ち出した。また、原子力空母は攻撃能力が高度化していくことの証左であり、第7艦隊の機動力がより強化されていくことになる。キャンプ座間への第一軍団司令部の発足、補給廠への戦闘指揮訓練センター建設、そして、陸上自衛隊中央即応司令部の移駐と日米軍事体制と連動、具現化することと、密接不可分につながっているのだとして、この空母配備反対の意義を確認してきた。このため、空母配備反対の闘いを「当事者」として闘い抜こうと、初めて「県央共闘会議」として、隊列を整え、アピールすることを表明してきた。

こうした経過を踏まえ、新しく「のぼり旗」10本と横断幕の製作にとりかかるとともに、紙バイザーを発注し、製作するなど準備してきた。また、集会参加者が団結を深めていくため、独自集会を設けて、7.19集会の意義を確認する必要があった。このため、デモ出発までの時間を活用して集会をもつこともできた。（\*公園管理者からの旗の立て方や再三の集会取り止めの指導があった。）

構成団体からは決意表明、連帯あいさつは社民党県連合と第一軍団を歓迎しない会、バスストップから基地ストップの会から受けた。ジリジリとする日差しが襲い掛かるも、脱落することもなく、デモ出発までの集会をやり抜いた。

◇ デモ隊列は、従来なら神奈川の先頭に配置されるのだが、7.19は、全水道、都市交通神奈川、自治労神奈川の後となった。爆同を先頭に県央共闘会議の隊列は約150名。当会議のスローガンが表示されたのぼり旗がデモ隊を引き締める。陸橋の上がり下がりをする変則のデモ行動。解散地点である市役所まで「母港化を返上せよ!」「空母の配備を許すな!」とシュプレヒコールを挙げ続けた。

◇ 県央地域で集会・デモを行う時は、構成団体として行動する自治労県央ブロック、湘北教組の労働組合も、県本部、県教組として行動した。高教組、相鉄も県単位として共に母港化反対の行動に取り組んだ。

## 原子力空母入港阻止の闘い\横須賀そして佐世保でも！

7月20日、午前10時から原子力空母横須賀母港化を許さない全国連絡会及び神奈川実行委員会第5回合同総会がヴェルクよこすかで開催された。

1万人を成功させるため、産別、地域を問わず取り組みを重ねきた東京平和運動センターの関事務局長の議長で進行された。

活動経過及び08年度運動方針(案)が藤本平和フォーラム副事務局長より提案された。既に08年度の重要な闘いの柱である原子力空母配備反対の闘いは始まっている。①住民投票条例直接請求②母港化撤回を求める要請署名③浚渫工事に係わる裁判闘争④関係機関への申し入れ、交渉。そうした活動の集約の山場として、配備阻止に向けた継続した闘いをどう拡大強化するかが重要目標だ。「住民投票を成功させる会」など、現地の活動との連携を図りながら展開していくとした。

また、7月28日に佐世保港に原子力空母ロナルド・レーガンが寄港する。九州全県で、反対闘争を取り組むので支援要請が提起された後、福山平和フォーラム事務局長の団結がんばろうで閉会した。

### 「飛行差止め」棄却に風穴

7月20日、午後1時から第48回厚木爆音防止期成同盟代議員総会が大和市生涯学習センターで開催された。

主催者として挨拶にたった鈴木保委員長は、49年に亘る闘いによっても改善されない違法状態にある現況、第四次訴訟で問う飛行差止めについて、82年から厚木基地で始まったNLPに触れ、87年に4万1千回を越え、1日627回に及んだことがあったことを暴挙と断じた。硫黄島への全面移転が実現しない限り、飛行差止めに司法の場で決着させるか、行政責任として実現すべきだ。そして、現在、基地騒音訴訟が新嘉手納、普天間、小松、新横田、岩国、厚木基地など7つの原告団になる。9月4～6日、騒音訴訟の横断的組織を結成し、知恵を集めて飛行差止めは棄却との司法判断に風穴をあけたいと述べた。

来賓としてあいさつした加藤平和運動センター事務局長は、かつて断念した厚木基地包囲行動に触れ、7.19集会の成功で第四次訴訟の政治的局面において、基地包囲行動を実施したいと述べた。檜鼻県央共闘会議事務局長は、ジョージ・ワシントンの横須賀入港に抗議すべく、大和市内で座り込み等の大衆行動を展開したいと述べた。

原子力空母母港化で、違法爆音の恒久化にさらされる基地周辺住民の反基地闘争の奮起こそ必要なのだと認識で一致した総会であった。

### 総会決議

我々はこの間、静かな空、平和な暮らしを求め運動を展開してきた。

特に大きなことは、第四次爆音訴訟団の結成であった。

1976年、第一次訴訟を提訴し、以来三次にわたり裁判闘争に取り組んできた。その結果、過去5回にわたる「爆音は違法である」との司法の判断がなされてきた。しかし国は、爆音解消のために具体的な対策を全く講ぜず、それどころか爆音のすさまじさが増すばかりである。相変わらず周辺住民に多大な被害と苦痛を押し付けている。我々は国の無策に対し新たな怒りをこめ、第四次の裁判闘争に立ち上がった。7054名の大規模な原告団により提訴され、本年5月12日に第一回の口頭弁論が横浜地裁で開かれ裁判闘争がスタートした。我々は第四次の裁判闘争の全面勝利に向けて全力で支援していく。

また、米空母の艦載機は爆音の元凶であり、横須賀基地の母港化は容認できないし、阻止しなければならない。しかし、今日の情勢は横須賀基地の強化、原子力空母の配備など多くの市民の反対にも拘わらず強行されようとしている。我々は地元の市民団体や平和団体と連携し、横須賀の空母の母港化、原子力空母の配備に強く抗議し、阻止行動に積極的に参加していく。

更に、厚木基地周辺の情勢は、日米軍事再編の進行によりキャンプ座間には米陸軍第一軍団司令部の移駐が強行に着々と進められている。

我々は静かな空、平和な暮らしをめざす立場から、基地機能の強化、恒久化に断固反対し運動に取り組む。

厚木基地を取り巻くきびしい情勢の中、我々は第48回定期総会を開催し、これからの運動方針を確認した。この方針をもとに「静かな空、平和な暮らしを求める」目標の実現に向けて全力を尽くして行くことを決議する。

2008年7月20日

厚木基地爆音防止期成同盟  
第48回定期代議員総会

